



## ～ 「しかり方」のポイントをおさえよう ～

多くの親が最も頭を悩ませている“しかり方”。気がつけば1日中しかってばかりという時もありそうです。有効なしかり方のポイントをおさえ、しかる回数を減らしたいものですね。

親として何についてしかりたいか、考えてみましょう。一番に、危ないことをした時です。熱いものや刃物にさわってはいけない、道路に急に飛び出してはいけないなど、生命の危険に直結するものは、短く強く「ダメ！ やけどするよ」等とそのたびにすぐに繰り返しかって覚えさせます。2歳代くらいまではそんな注意は多くなるでしょうし、親の真剣な表情や姿、強いしかる声を目の前にして子どもはいけないことだと覚えていきます。3歳ぐらいになると社会的なルールなどを理解していきますから、テーブルに乗ってはいけない、物を壊してはいけないなど、子どもがやった直後にしかります。子どもが何についてしかられたか理解できるように、回りくどくなくストレートに言います。

親は先生ではないので、無理に「感情をおさえて冷静になる」必要はありません。感情はシンプルに表現したほうが子どもに通じますし、自分自身の心の健康も保てますよ。両親が話し合っ、しかる内容に一貫性を持たせることも大事です。家庭のルールは子どもにも伝えておくとよいでしょう。

体罰はやめましょう。子どもはその時は痛いからやめるかもしれませんが、いずれ痛みに慣れ、たたく方はエスカレートしていくこととなります。成長後の子どもも暴力的方法で問題解決をしていくことなる可能性があります。